

進路通信 No.27



進路指導部

I. 私立大出願状況

こんな一瞥一背景があるのですね



次は「『UNIV PRESS NEWS 大学通信』2018年1月31日号」よりの抜粋。景気の影響に左右される私立大一般入試は、18年度入試も増加傾向。中でも、英語外部試験利用入試は人気が高いようです。

私立大の一般入試が2月から本格化する。私立大の志願者は、1月30日時点で確定値を公表した主要大学の状況を見ると、全体で大きく増加。

その理由として挙げられているのが、**私立大の「定員厳格化」による合格者の絞り込み**だ。定員厳格化とは、2016年度以降、入学定員を上回る入学者のいる大学に対して、その率に応じて補助金が減額や不交付となるもの。大規模大学は18年度には定員の1.1倍と、中規模大学（1.2倍）や小規模大学（1.3倍）よりも厳しい基準が設けられている。

この影響により、首都圏や近畿圏の大規模大学では、16年度から一般入試の合格者数が以前に比べて減ることになった。その対応として定員増を行う大学もあり、18年は明治大が1030人もの定員増を実施した。一方、受験生は、2月入試で併願校を増やして合格を確保したい思いが強いと見られる。

1月末までに出願を締め切る大学の一般入試出願状況（センター利用方式除く）を見ると（中略）、MARCH（明治大・青山学院大・立教大・中央大・法政大の中で、増加率の大きい中央大は、学部別では文・商の増加が目立ち、入試方式では**「英語外部検定試験利用入試」**が2.3倍に増えた。英語外部試験を利用する入試は、法政大が2.4倍、立教大は1.9倍に増え人気だった。MARCH以外では、芝浦工業大の「英語資格・検定試験利用入試」が昨年の1.6倍、明治学院大は1.8倍に増加、18年から実施する東京女子大は全志願者の21%が「英語外部検定試験利用型の志願者だ。

II. 日程

確認してください

行事● 2月10日（土）2年進研センター対策早期模試（希望者）

● 2月9日（金）高1・2スタンダードレベル模試 解答提出

● 2月23日（金）JST吉田先生による2年生進路講話 6限

● 3月9日（金）卒業生進路体験発表会（5・6限）

外部● 2月18日（日）辻調グループ進路応援プロジェクト



食の世界を体験して“好き”を見つけよう！

11:30～16:00 リーガロイヤルホテル広島

一流ホテルの味を堪能、体験授業、個別相談など 申込(締切2/13)・参加は各自

● 3月17日（土）広島大学 体験科学講座～女子高校生特別コース

12:30～17:00 広島大学工学部大会議室



Ⅲ. 2年進研早期マーク模試

2月10日(土)実施です

	試験科目等	実施時間帯	時間	
	受験カード記入	8:30～8:50	20分	
I	国語	8:50～10:10	80分	
	問題回収・配布	10:10～10:20	10分	
II	英語	リスニング 筆記	10:20～10:50 10:50～12:10	110分
	昼休憩	12:10～12:55	45分	
III	数学①	12:55～13:55	60分	
IV	数学②	14:05～15:05	60分	
V	地歴	15:15～16:15	60分	
VI	公民	16:25～17:25	60分	
VII	理科①	17:35～18:35	60分	

今回は「しっかり稼ぎな!」とは言いません。しっかりポロクソにやられな!必要とされるレベルを実感しな!本格始動しな!



2月の進路LHR予告

1年生・2年生ともに、自分の希望する企業・学・短大・専門学校等の調べ学習を行います。現段階での志望先をリストアップしておこう。

Ⅳ. What's 英語外部試験利用入試?

英語外部試験利用入試とは、英検、TOEIC®、TOEFL iBT®、IELTS、TEAP、GTEC CBTなど、主に英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)を測る民間の英語検定試験結果に応じ、英語の試験を免除したり、英語の試験に加算したりする入試制度のこと。

従来の大学入試で扱われる英語はリーディング偏重だったため、グローバル社会において英語でコミュニケーションが取れる人材を育成するため、**2020年度からは、センター試験の代わりに4技能、特にスピーキングが含まれた試験が行なわれる予定となっている。**

それに先立って、一部の大学ではすでに英語外部試験利用入試を実施しており、2017年度の入試では採用大学が前年に比べて2倍以上に急増している。具体的には、2016年度一般入試に英語外部試験利用入試を導入した大学は、国公立大合計で50大学だったが、2017年度には110にもものぼり、一般入試のおよそ14%を占めている。この増加傾向は今後も続いていくと考えられ、特に最近では、西日本を中心に国公立大学も英語外部試験を利用してきた。

試験の採用率は、学習指導要領に沿った出題が特徴の英検が1位を占めている。ただし、ほかの検定試験も利用できるケースが多く、各試験の特徴を把握し、自分に合った試験を受験することで、高得点率をあげることができると考えられる。語彙の難易度やライティングの語数など試験によってばらつきがあるため、人によって多少の得意不得意が出てくる可能性が高いためだ。

また、試験によってはCBT(ペーパー試験ではなく、コンピュータを用いた試験)を導入しており、今後はキーボード操作やコンピュータへの録音などCBT形式に慣れることも重要になってくるだろう。



大半の英語外部試験利用入試では、**英検2級レベルで優遇措置が得られるケースが多く、難関大学では英検準1級の水準が要求されることが多い**状況だ。そのため、**高校の初期段階で英語力をつけて、英検準1級、またはそれに相当する資格を保有することは受験生にとって大きな利点となる**だろう。

(「study-hacker」HPより:一部改)

* **27号は2ページまでです。**